

日本野鳥会会津支部 会報 月刊 星

支部会報 2019年 3月号 第2018-02号



コハクチョウ H31年1月 会津美里町 (撮影坂井さん)
(首にGPS,両足にリングの標識 左脚は赤リングでB03とある。
昨年の個体(A61)とは違う。ロシアで標識され放たれたもの。P-7参照)

- P-1 表紙写真 目次
- P-2 挨拶
- P-3,4 探鳥会便り
- P-5 トピックス ガンカモ類調査 研修会報告
- P-6 研修会報告
- P-7 鳥便り 標識コハクチョウ 東北ブロック協議会報告
- P-8 事務局便り
- P-9 活動報告 あとがき お知らせ
- P-10 平成31年の活動予定(案)

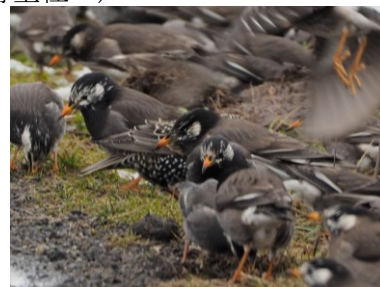
発行：日本野鳥の会 会津支部 支部長 満田信也 2019/3/10
事務局 〒965-0806 福島県会津若松市宝町2-7 林 tel&fax 0242-28-9713
<http://aidu.wbsj.b.la9.jp>

1. 支部長挨拶

◎小田山に巣箱をかけました！ 小田山で野鳥の観察をお勧めします！

長年、会の活動として巣箱を制作し設置したいと希望がありましたが、なかなか実現に至りませんでした。まずは小田山にかけようと市役所「花と緑の課」に相談しました。市の助言をいただいた後に、小田山でサクラの移植活動や里山再生事業を行っているNPO「はるなか」に相談しました。巣箱設置を協同事業として取り組んでいくことになりました。当初は北側の遊歩道登り口から田中玄宰墓までに5個の巣箱をかける構想でしたが、下見の結果、20個に増やすことになりました。巣箱をかける樹木は、遊歩道から観察できる距離で、巣箱の定期的な手入れなどを考慮し高さは3～4m、へビなどがのぼりにくい太さや傾斜、さらに周囲の樹木との距離など考えて選びました。設置までに下草刈りや不用な横枝の剪定などを「はるなか」が行っていただきました。市民に制作・設置参加を「巣箱の里親になりませんか！」と新聞やチラシで呼びかけました。板材は木工関係企業よりご寄付いただきました。設計は野鳥関係の書物を参考にしました。巣箱は「はるなか」と野鳥の会のメンバーで「はるなか」の施設をお借りして制作されました。 ☆11月17日(土) 曇り空で小雨混じる天候でしたが、小田山に会員10名、「はるなか」6名、一般参加が1名、軽トラ3台で3班に分かれ、20個の巣箱を遊歩道沿いにかけることができました。新聞社も取材に来て、野鳥の会のサクラの前で記念撮影①をして終了しました。関係機関、「はるなか」、野鳥の会会員、個人、各位より、事業に理解いただき、現地下見、材料の提供、巣箱制作・設置協力など幾多の支援があり事業がなされたことを紙上で感謝申し上げます。ありがとうございました。 ☆今後は定例の会の探鳥会で繁殖状況を調べたり、「はるなか」と合同の観察会、一般の方々との愛鳥教室など会の活動をしていきたいです。市民の方に巣箱を広く知っていただき、野鳥を見て楽しむことが今まで以上に活発になり、自然保護の考えが普及されることを期待します。 ◎ホシムクドリがまぎれていた！

平成31年1月9日にこの冬一番の降雪があり、雪もおさまった11日、北会津方面に鳥を見に出かけました。川南地区でスズメの大群を見かけました。スズメは田んぼと道路、畑を往復しながら大きな群れで餌をついばんでいました。以前、猪苗代でアトリの大群に会いましたが、それほどの規模ではないが大きかったです。スズメも群れになると個体としてでなく、群れ全体で一個体のような動きを見せます。次に米塚のりんご園に行ったら、ムクドリの群れに出会いました。摘果され落ちたりんごを食べていました。大半はムクドリですが、ツグミ、シメ、ヒヨドリも混じっています。雪融けのりんご園の奥でせわしく採餌している。何かの物音や、鳥の影などに驚いて一斉に飛び立っては、りんご園の上を一回りして、またおりて採餌することを繰り返しています。以前、研修会でムクドリの群れにギンムクドリが混じっていることがあるとの話を思いだし、群れごと写真で記録しました。見ている分ではムクドリしか見あたらなかった。 ☆翌日、家で群れの画像をチェックしていたら、黒地に水玉(星)模様の個体が混じっているのに気づいた②。やや、これはホシムクドリでは。さらに、りんご園の近くの別地点で撮った写真を見たら、飛び上がっている個体を見つけた③。ホシムクドリは大陸性の野鳥でかなり珍しいのです。福島市小鳥の森に照会すると、今季、福島市でも1個体の情報があるとのこと。日本海側の新潟市では大陸から渡ってきているのが見かけられています。3年ほど前の4月末に能登半島沖合にある舩倉島で、宿屋の前の草地にいるのを撮影したことがあります。(1890年、欧州原産のホシムクドリをセントラルパークから放鳥された後、驚異的な繁殖能力を発揮。瞬く間に米国中に広がり、いわゆる侵略的外来種となって、愛鳥家ですら絶滅を願うほど米国で嫌われている。「モーツアルトのムクドリ」青土社)



2. 探鳥会便り

会津支部で実施した探鳥会の様子をお知らせします。



11月3日(土) 定例探鳥会 博士山昭和村 10名

毎年恒例の地蔵祭りです。博士地蔵に赤飯をあげて、イヌワシの無事を祈願しました。埼玉の会員の参加と絶好の秋日和に恵まれ、紅葉とクマタカと新そばを味わう幸せな探鳥会でした。喰丸のイチョウも綺麗でした。 マガモ コガモ ハクセキレイ カケス ヒヨドリ トビ シジュウカラ **クマタカ** 矢の原湿原では、ヤマガラ コサメビタキ ヤマドリ 11種

上の写真はクマタカ 下は地蔵の前 博士トンネルの工事中で、道の付け替えのため地蔵は移動の予定。環境が落ち着くまで、暫く時間が掛かりそうです。

11月17日(土) 身近調査 小田山 巣箱掛け作業 11名



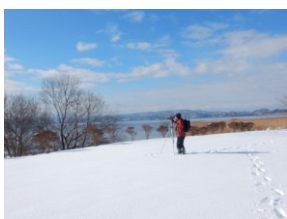
懸案であった小田山公園に巣箱を設置する構想が実現しました。「NPO はるなか」との共同作業です。前日までに巣箱 20 個を会員及び NPO 会員が板材から製作し、仕上げは表面に柿渋を塗り、高級感のある巣箱となりました。樹木に取り付ける作業は、脚立に安全帯と保安帽と万全の安全対策で、身軽な会員が主体的に実施し、無事終了。来年の春には、シジュウカラなどが利用することでしょう。支部としても、探鳥会などで見守り、記録してゆくことになり、小田山に来ることが楽しくなると思われます。NPO 関係者から、もっと巣箱を増やしても良いのではとの声がありました。様子を見ながら進めることになりました。今後他の所や対象とする鳥なども検討します。

参加された会員さんにお疲れ様でした。新聞でも報道。



12月8日(土) 鳥談義 会津若松市

駅前の居酒屋に 14 名集合し、女性会員が 7 名も参加しとても盛り上がり、鳥の話やその他にも花が咲きました。日頃顔を合わせても、なかなか話をするのが少ないのか、積もる話が沢山でした。身近な鳥の話題などは話すキッカケに良いのでしょうか。皆さん打ち解けました。SK さん ST さん写真アルバムをありがとうございます。



1月13日(日)

全国一斉ガンカモ類調査

オオハクチョウ コハクチョウ
カルガモ マガモ オナガガモ
ヒドリガモ オカヨシガモ ホシ
ハジロ キンクロハジロ スズガモ
ホオジロガモ カワアイサ カワ
ウ オオバン ダイサギ マガン
詳しくは P5 参照。



1月19日(土) 定例探鳥会 鶴ヶ城公園

真冬のお城の探鳥会にKさんが南会津から参加してくれました。嘴の黄色のカルガモがいました。コガモ カルガモ ヒヨドリ ジョウビタキ マガモ ハシボソ フクロウ ハイタカ コゲラ オオバン ムクドリ アオサギ シメ トビ オナガ オナガガモ モズ ウグイス ハシブト エナガ キジバト 21種



2月9日(土) 身近調査 小田山公園

公園入口の畑の柿の実はまだ残っていたので、ムクドリ ヒヨドリ ツグミが来ていました。ウソ イカル ハシボソ キクイタダキ エナガ ヤマガラ ゴジュウカラ ヒガラ キバシリ

14種 キバシリ写真は武田さん動きが早いにもかかわらず、良く撮れました。嘴の曲がりとお腹の白さ。 ナイスショット!



2月16日(土) 定例探鳥会 会津坂下・美里町

田んぼと出戸田沢のコハクチョウを観察。コハクチョウ 94羽 (幼鳥 8羽) タゲリ 2羽 アメリカコハクチョウ (写真左) 嘴が黒く黄色部は少ない。撮影した S さんによると、一回り体が大きいせいか、飛ぶときの羽音が大きいので分るらしい。稀なゲストです。



3月2日(土) 特別探鳥会 北会津

鶴沼橋 カワウ カシラダカ トビ ムクドリ タゲリ 5種 出戸田沢 ノスリ コガモ マガモ オナガガモ ホシハジロ カシラダカ カワラヒワ ヒヨドリ

北帰行が始まる。写真はコブハクチョウ 導入種だが、野生化しコハクチョウと一緒に行動。数年前以来の観察。下の写真はで戸田沢です。雪が少ないせいか、フキノトウもたくさん採れました



3月10日(日) 定例探鳥会 福島市小鳥の森

震災以降は応援探鳥会として、小鳥の森を訪ねている。子供の可愛い声が小鳥の森にも戻ってきた。シメ ヤマガラ シジュウカラ アトリ ゴジュウカラ アオサギ
今年は雪が無く、すっかり春の山となっていました。

3. トピックス

3.1 ガンカモ類調査結果

2019 (H31) 1月13日実施 ガンカモ類調査結果 羽数													
地点 No.	148	149	151	152	153	154	155	475	476	244	245	158	
種名	志田浜	白鳥浜	三城潟	高橋川	蟹沢	長浜	崎川浜	小黒川	山潟	湯川天寧	湯川天神	鶴ヶ城	
オオハクチョウ	40	15	25					3					83
コハクチョウ	57	40	381	7	42	62	162	16					767
マガモ	90	180		6		32				2	3	28	341
カルガモ			10		10	2		30		4	32	88	176
コガモ					26							131	157
オカヨシガモ													0
ヒドリガモ	12												12
オナガガモ	180	120				1387	585						2272
ハンビロガモ													0
ホシハジロ		50		12		2							64
キンクロハジロ	4	60		23		31	4	8					130
スズガモ				4		8	2						14
ミヨアイサ		12											12
ホオジロガモ		4											4
シジュウカラガン													0
アオサギ											1		1
カワウ			1									1	2
オオバン													3
マガン					1								1
	383	481	417	52	79	1524	753	57	0	7	36	250	4039
ユリカモメ						3							
ウミネコ													
ダイサギ		1						1			1		

毎年新年の恒例となっている調査活動です。全国的には環境省が、地方では各県が主体となり野鳥の会が依頼されて実施しています。鳥インフル問題で給餌が自粛され、個体数が減少したところもあるが、近年は大きい変化はありません。昨年から GPS 装着のコハクチョウが観察されています。詳しくはトピックスを参照してください。3 月末の北帰行が終わるまで、猪苗代湖は賑わいます。

3.2 研修会報告

会津稽古堂会議室で「会津の自然」の大きいテーマのもと、1 月 27 日（日）に 6 月に引き続き開催されました。この研修会は裏磐梯猪苗代湖の水環境保全のための湖美来基金の助成を基に運営されています。講演主体の勉強会なので、公開とし一般参加を新聞で研修会のことを採り上げてもらいました。多忙時期にもかかわらず会場の稽古堂には、会員を主体に 30 名程の参加となりました。



講演会場の様子



講師 松下氏

講演1 「小さな生き物を守りたい チョウ・トンボの保護」 10:30～11:30 松下俊彦氏

講演2 「猪苗代湖北岸の鳥類調査報告」 11:30～12:00 (満田信也氏・林 克之氏)

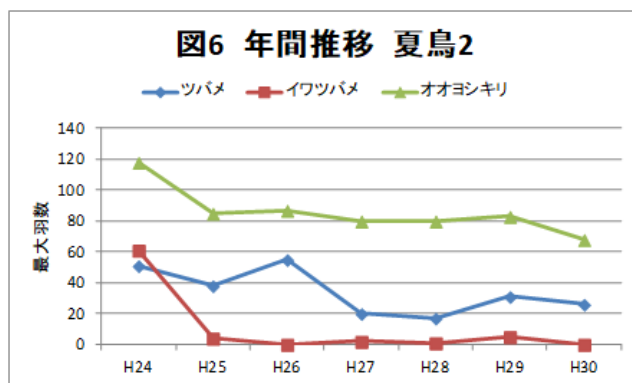
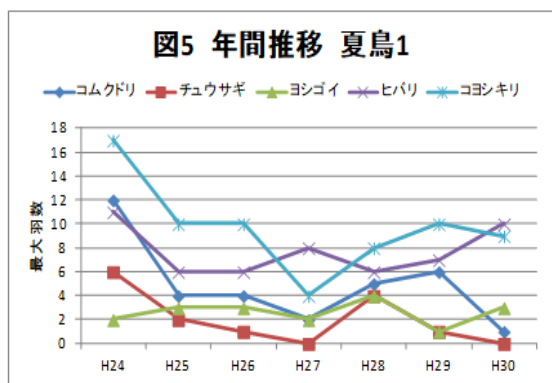
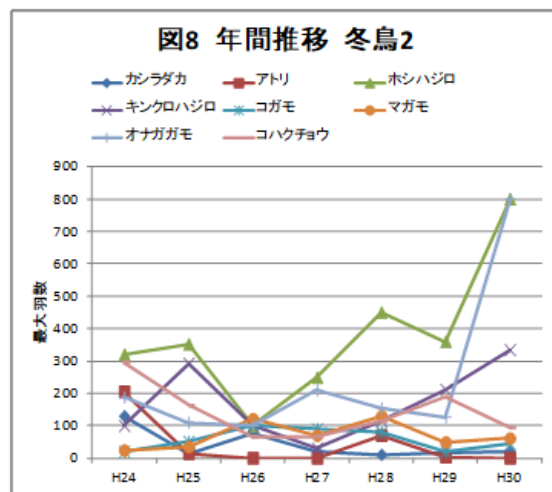
講演1は、配られた資料の順序でお話がありました。「虫との関わり」で自己紹介があった。昆虫少年の頃、父から買ってもらった「原色日本蝶類図鑑(保育社)」に読めない漢字に振り仮名が振られ、ボロボロになった図鑑の序文に「広く豊かな知性と識見をもって自然を鑑賞し、自然に親しむことこそ、より良き人生の営みでなくてはならない」「自然の神秘は限りなく奥深い、私どもの未知の世界は無限である」とあり、いつしか暗唱してしまった。60 年間昆虫を見続けることになった人生の一つの岐路が、折々の心を癒してくれたこの一文にあったような気がする。トンボ・チョウの生活史の紹介では、昆虫と自然のしくみとして、自然は生産者と消費者及び還元者のエコシステムの中で循環し、食物網で生き物は繋がり、自然は昆虫により回っていて、昆虫は重要な働きをしていると言える。絶滅が心配される種類のマダラナニワトンボ コバネアオイトトンボ等 14 種の現状について、そして今後の保護の考え方、小学校での出前授業、市民と共生の森の会での活動など具体的な実践事例のお話があった。特にヒメシロチョウの保護については、絶滅危惧 I 類に選定され、全国的に激減している。ツルフジバカマが食草で、年に 3 回発生する。生息地での草刈りの実施時期などは繁殖時期を考慮して実施すべきであろう。トンボの保護については、外来種の

アメリカザリガニの駆除などの対策が必要である。などわかりよく説得力のあるお話でした。ツマグロヒョウモン ウラギンシジミ ムラサキシジミ ウラギンシジミなど南方系の種類が近年観察され、昆虫の世界から地球温暖化の進行が実感される。具体的には赤井谷地の乾燥化植生の変化への警鐘、猪苗代湖西岸の水辺環境の危機、県内での自然史博物館の設置請願活動 近くの田んぼのレンコン池がイトトンボのビオトープとなっていて、豊かな里山にこそ、その必要性が大きいと訴え、昨年出た県のレッドリストは希少種が増えたが、削除された種もあり、リストにない希少種もあると指摘している。 視聴したテレビドラマから山岳写真家の田淵行男の高山の蝶を紹介され、青春時代に大いに影響を受けて、蝶に親しんできたことと、これからも青春の感動を胸に、昆虫や植物をテーマに自然との更なる触れ合いを愉しみたいと話を結んだ。充実した講演内容でした。時間があれば、もう少しお話を伺いたかったです。会場からは、講師が庭に昆虫の食草を育てたりしているので、この経験も時間まで話された。

講演 2 は支部の活動として実施している猪苗代湖北岸の鳥類の調査報告で、今年度分の速報として報告した。

今年度は 66 種の鳥類が観察され、例年よりも若干少ない。希少種も 13 種観察されて、優占種でもあるオオヨシキリは漸減傾向にあり、希少種のヨシゴイ オオタカ など例年観察されて、生息環境としては安定しているものと考えられる。7 年間についてみると 107 種の鳥類が観察され、昨年より 3 種増加し、継続調査により精度が良くなっている。水田が減少しソバ畑が増加、レジャー客の増加など、環境変化要因があり、保全保護の施策としてラムサール条約の登録も今後の課題であり、今後も慎重に見守ることが大切である。

2018年観察された福島県レッドデータブック記載種				
No.	種名	2017年改訂 カテゴリー		2018
		新	旧	
1	オオタカ	絶滅危惧種Ⅱ類	絶滅危惧種Ⅰ類	VU P3
2	チゴモズ	絶滅危惧種ⅠA類	絶滅危惧種Ⅰ類	P3
3	ヨシゴイ	絶滅危惧種Ⅱ類	絶滅危惧種Ⅱ類	P1,Pe
4	ミサゴ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種Ⅱ類	NT P5
5	チゴハヤブサ	絶滅危惧種Ⅱ類	準絶滅危惧種	Pe
6	コサメビタキ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種Ⅱ類	P6
7	ノスリ		準絶滅危惧種	Pe,P4,P5
8	ヒバリ	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種	P2,Pe,P3
9	オオヨシキリ	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種	P1,P2,Pe,P3,P4,P5
10	コヨシキリ	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種	P2,Pe,P3,P4
11	ハイタカ	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種	NT Pe,P3
12	バン	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種	P2,Pe,P3
13	オオバン		希少	P1,P2,Pe,P3,P5,P6
14	カッコウ	準絶滅危惧種		Pe
15	コサギ	準絶滅危惧種		P2
			種数	13



研修会は支部の新しい組み合わせで、今後会員のスキルアップなどに活用します。次年度の開催も検討されています。地域的话题を多様な切り口で深め、理解してゆくことが基本姿勢です。

4. 会員便り

4.1 鳥便り

会員の皆さんから、鳥情報が事務局に寄せられます。今年度の一部を紹介します。

10	30	マガン	30	猪苗代町	北岸	角田
1	3	ナベヅル	3	磐梯熱海	インター	角田正明
1	5	コハクチョウ	1	喜多方市	塩川	角田正明
1	10	コハクチョウ	1	会津坂下町		坂井健
1	11	ホシムクドリ	1	北会津		満田信也
1	13	マガン	1	猪苗代町	蟹沢浜	武田、林
2	10	マミチャジナイ	1	会津若松	小田山	五十嵐悟
2	10	シロハラ	1	会津若松	小田山	五十嵐悟

鳥便りを寄せてください。公開をします。観察時の情報（いつ、どこで、なにが、いくつ）があれば貴重な記録となります。何をしているのかも分かると生態記録にもなります。写真を添えて戴けると、完璧です。メールでも出来ます。

4.2 会津で観察した標識コハクチョウの情報

昨年（2018年）の冬から、会津美里町と猪苗代町で飛来したコハクチョウの中に首にGPSと足環を付けた個体を支部会員が発見し、写真撮影をしました。その情報を早速、我孫子市の公益法人山階鳥類研究所に報告し、返事を心待ちしていましたが、最近やっと届きました。放鳥先の機関が多忙であったようです。ともあれ、返事の内容は、2月9日 会津美里で確認の個体 AA3872 赤 B03 は 2018・8・15 にロシアで放鳥、2月27日 猪苗代町で確認の個体 AA3876 赤 B07 は 2018・8・16 にロシアで放鳥 どちらも 2016年よりロシアと中国の協同での追跡調査。放鳥の場所は、ロシア共和国チュコトカ、チャウン湾、グバ（68d49mN, 170d34nE）で、3歳以上の成鳥として放鳥されたものでした。なんと1日違いで放鳥されたものでした。同じ会津で確認されるとはびっくり。やはり、家族関係なのでしょうか。来シーズンが楽しみです。以下は山階鳥類研究所からの報告です。

「日頃より標識調査へのご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。海外放鳥・回収を担当しております。先日、ロシアのセンターより、11月29日ご観察のA72・2月27日ご観察のB07 について、それぞれ返事が届きましたので、取り急ぎお知らせいたします。2016年から、ロシアと中国の共同で首輪型の発信機をつけたコハクチョウの追跡調査が行われており、この個体はその中の1羽です。ハクチョウたちは繁殖期に羽を新しく生え換わらせるため、しばらく飛べなくなります。その生態を利用して、成鳥や幼鳥を捕獲して、調査しているようです。まず、A72につきましては、大変残念なことに、放鳥時の記録を照会できませんでした。「放鳥時の記録なし・報告に誤りがある可能性・報告が不完全で特定不可」のいずれかだとの返答で、詳細は不明です。次にB07につきましては、無事に放鳥時の記録が届きました。この個体はロシア共和国チュコトカ、チャウン湾、グバ（68d49mN, 170d34nE）で2018年8月16日に、3歳以上の成鳥として放鳥されています。金属足環の番号はお読み取りいただいたとおり、Moskwa AA-3876です。なお、A72をご報告くださったTSさんと同一人物と思われる方から会津美里町観察のB03のご報告を頂戴しており、本日メールでお返事を差し上げたところです。その他福島県下では、A78のご報告もごさいますが、もしこれら以外の番号をご確認された記録があるようでしたら、ぜひお知らせいただければと思います。ロシア側でも照会にかなりの時間を要し、お返事までお時間を頂戴しまして申し訳ありませんでした。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。」公益財団 山階鳥類研究所保全研究室（鳥類標識センター）

4.3 東北ブロック協議会総会報告

3月16・17日山形県天童市市民プラザにおいて東北ブロック協議会総会が開かれました。

出席総数 82名 会津支部からは長谷川、山岸が参加しました。

女性対象の企画もあるという案内に誘われ、米沢まで車、米沢～天童まではローカル線の旅でした。財団自然保護室より「風発のセンシティブィーマップの作成のためのガン類・ハクチョウ類の情報提供のお願い」の話がありました。基調講演は野鳥作家の松田蘭子氏の「鳥女（とりじょ）の昔話」と題して1970年代からの東京近郊の干潟の推移を野鳥通して観察してきたことのお話でした。

総会は29年度会計報告と次期開催支部は白河支部ということが承認されました。又、各支部活動報告がなされ終了。その後、ホテル「王将」に移動して恒例のオークションと懇親会になりました。オークションでは米沢牛やサクランボなどもあり、なんと、あと少しで10万円にもなりました。私たちが出品と購入をして協力しました。翌17日は8時よりワシミズクとのふれあいをして、ケヤキの樹洞で繁殖するチョウゲンボウを観察し最後に舞鶴山（毎年人間将棋が開催される広場）での鷹匠による鷹狩り実演を見学しました。中央アジアの崑崙（こんろん）地方からやってきたイヌワシ、名前は「こんろん」。一週間絶食させられており、放たれたニワトリを見つめるや山頂から滑空しあつという

間にワシ掴んで抑え込み。つばさで覆い隠し、生きたまま羽根をむしり食する様をまのあたりにして慄然としてしまいました。一週間絶食させられるイヌワシ・生きたまま食われるニワトリ・それを見ている人間・そのどれにもなりたくない一瞬思ってしまった。鷹匠がなりわいとして成り立っている時代ならば、もっと違った見方ができたかもしれません・・・いずれにしても中身の濃い 2 日間でした。山形支部スタッフ一同の行き届いた心配りには本当に感心させられました。感謝申し上げます。以上、私的な報告になってしまいました。(文責 山岸)



5. 事務局便り

1. 主な活動報告

- ・ 10月 3,4,5日 小田山巣箱取り付け準備 下見 材料準備 NPO はるなかと共同
- ・ 10月 14日 (日) クリーン探鳥会猪苗代湖 参加者 6名
- ・ 10月 23日 (火) 小学生と野鳥観察会(鶴城小5年) 満田 児山 武田 山岸 林 参加
- ・ 11月 1日(木) 猪苗代湖北岸ヨシ刈りボランティア 林 参加
- ・ 11月 3日 (土) 定例探鳥会 博士山 博士地蔵で祈願祭の後昭和でそば会。埼玉から 4名参加。
- ・ 11月 6日 (火) 福島県水環境フォーラム 猪苗代町学びいな 林参加
- ・ 11月 10,11日 連携団体全国総会 千葉幕張 本部主催 児山出席
- ・ 11月 17日 (土) 小田山探鳥会 歩道に巣箱 20個取り付ける。NPO はるなかと共同事業の形で実施。野鳥の会から 12名参加。巣箱は 11月 12~14日 で製作。
- ・ 11月 23日 (金) 市主催の自然観察教室(鶴ヶ城)の講師 (満田)
- ・ 11月 30日 (金) 地球にやさしい県民会議(北会津ピカリン) 林 参加
- ・ 12月 1日 (土) 探鳥会 新潟福島潟瓢湖 山岸 武田 児山 満田 林 佐藤
- ・ 12月 8日 鳥談義 寧々家 11名参加
- ・ 12月 20日 (木) 市民環境教室(市主催) 鬼多見健氏の猪苗代湖の話
- ・ 1月 13日 (日) 全国一斉ガンカモ類調査 報告書は 1/17 にCDとして福島支部に送付。
例年よりハクチョウが多く観察。マガンも。5名参加
- ・ 1月 19日 (土) 定例探鳥会 鶴ヶ城 10名参加 フクロウ観察
- ・ 1月 27日 (日) 第4回支部研修会 稽古堂 会津のチョウ・トンボと猪苗代北岸の鳥類の話
- ・ 2月 3日 (日) 役員会 東公民館 平成 31 年度の活動計画について
- ・ 2月 9日 (土) 身近調査 小田山
- ・ 2月 16日 (土) 定例探鳥会 会津美里町(新鶴地区) 出戸田沢と新鶴でコハクチョウ観察
- ・ 3月 2日 (土) 特別探鳥会 田んぼの鳥 鶴沼橋 白鳳山公園
- ・ 3月 3日 (日) 県委託カワウ調査 翁島、山都、東原の 3か所で実施。
- ・ 3月 7日 (水) 森林管理署意見交換会 13時から 満田出席 イヌワシの飛翔が話題に。
- ・ 3月 10日 (日) 定例探鳥会 福島小鳥の森 長谷川 山岸 林 応援探鳥会 シメ アトリ
- ・ 3月 16, 17日 (土日) 東北ブロック協議会総会 山形天童市 山岸 長谷川出席
- ・ 3月 23日 (土) 役員会 東公民館 H31 年度の計画の策定

6. あとがき

* **先ず**、いつものように発行が遅れ、皆様にご迷惑をおかけしている事をお詫びいたします。

表紙写真は GPS 標識を付けたコハクチョウです。数 100 羽の中から見つけ出したものです。本文にあるように昨年からは会津で見られるようになりました。福島ではあまり見られない。飛来滞在地はある程度固定化しているのかもしれませんが。コハクチョウは家族単位で行動するので、環境の良い所が広く必要ということになります。ロシアからの報告にあるように、標識の取り付けは、飛べない換羽時期に実施することが分かりました。これならば、捕獲も楽で簡単ですね。30 年ほど前の猪苗代では、コハクチョウが警戒しなかなか捕獲できず時間が掛ったことがありました。発見したらご一報を。水の中にいるときは、足が隠れているので、田んぼに居る時が適切かと思えます。

* **探鳥会の充実**は、探鳥会が野鳥の会行事のメインであります。探鳥会の充実が会員の増加策が鍵です。山形支部では女子会の探鳥会もあるようです。次年度は愛鳥教室の充実化を検討しています。研修会も好機です。こちらこそせっかくの機会を生かしてゆきたいと思っています。

* **ガンカモ調査** 毎年の恒例の行事となっています。全国一斉にガンカモ類を調査することにより、種類と生息数を把握する環境省の事業です。福島県が主体で野鳥の会も協力する形で継続されています。全国では珍しい種が見られたりと話題が豊富ですが、観察の眼が増えると、珍客の発見があるかもしれません。参加者を募ります。

* **身近な鳥**のムクドリとカラスの対策 今年市は 2 年間の事業として終了し、ある程度の成果が見られたので、各地区での個別の対応となっています。しかし、冬のカラスは市街地にまだ集団で埒をとっています。場所がクルクル変わり、集団が小さくなっています。市民との協力体制がもう少し進むことを願っています。人との共存・軋轢の各地での大きな問題の一つです。

* **ご意見や鳥便り、原稿をお寄せ下さい。**(事務局 コツバメ)

総会のご案内

4 月 13 日 (土) 会津若松市東公民館 日本間 11 時から 12 時まで

次年度 (H31 2019 年) の活動計画と予算

今年度 (H30 2018 年) の活動報告と決算

その他

多くの会員の参加をお願いいたします。同日の 13 日は 8 時から小田山で

探鳥会もあります。